

張平年書
以前生長者如

0516

目次		
名 稱	特 徴	主要諸元
其ノ一	取扱上ノ注意	一
其ノ二	銃身止ノ操作ノ銃身交換	一
其ノ三	射撃間ノ注意並應急處置	一
其ノ四	日常ノ手入及注意	二
其ノ五	射撃後ノ手入及注意	二
其ノ六	分解結合上ノ注意	三
其ノ七	射撃前後ノ検査	三
彈 藥		四
空包銃身		四
部品ノ命數		四
		七

0517

九九式輕機關銃ノ特徴

九九式輕機關銃ノ主ナル特徴ヲ舉クレハ左記ノ如シ

一威力増大竝ニ口徑統一ノ目的ヲ以テ口徑ヲ七糎七トス

二銃身ノ肉厚ヲ増シ銃身命數ヲ延長セシム

三腔鏡ハ左轉ニシテ「クローム」めつきヲ施ス

四藥室ノ經始ヲ變化シ無油連發ノ可能限界ヲ増大ス

(一〇〇—一五〇發/分以上ノ發射速度ニテ一〇〇〇發以上)

五銃身ノ絶對交換性附與ノタメ銃身ヲ前後シ得ル如キ銃身止法ヲ採用ス

(橫楔式)

六主要部品ニハ互換性ヲ附與シアルタメ交換ノ際摺合セノ要ナシ

七構造堅牢特ニ圓筒・活塞・擊莖^{ストローク}ハ鐵子ノ耐久度大ナリ

八脚ノ強度ヲ増加シ且後脚ヲ附ス

九輸出口蓋ハ故障排除ヲ容易カシシムルタメ射擊中常ニ開キアル如クス

一〇消焰器ヲ附ス

九九式輕機關銃主要諸元

區		分	諸	元
全備重量 (除彈倉)	口徑	腔綫數	纏度	全長 (含消焰器)
約九底九〇〇	七耗七	四條	左轉 五度四十九分四十二秒	一米一八五
				〇米五五〇
				〇米四九三
				〇米三六〇
				〇米三二八
自動樣式	彈倉樣式	彈倉收容彈數	ガス利用	箱彈倉
				三〇發

0520

鏡 眼	彈倉重量	發射速度	初速	最大射程	觀線長	照準高	照尺	倍率	視界	重量
	空 三〇發入						最大 最少			
	約〇貳六三〇	約五五〇發分	約七一五米秒	約三五〇〇米	〇米六二五	〇米五九〇	二〇〇米	一五〇〇米	二、五倍	約六五〇瓦

0520-2

九九式輕機關銃取扱上ノ參考

其ノ一 取扱上ノ注意

一、機關銃ノ機部ハ各々相聯繫シテ始メテ完全ナル機能ヲ呈スルモノナルヲ以テ車ニ一部品ニ生シタル故障ト雖モ直チニ銃ノ機能ヲ障害シ其ノ命數ヲ短縮スルノミナラス其ノ戰闘威力ヲ減殺スルニ至ルヲ以テ銃ノ性能並各部ノ機能ニ精通シ取扱法ニ慣熟シ常ニ手入保存ヲ良好ナラシメ検査ヲ履行シ以テ銃ノ整備ヲ完全ナラシムルコト最モ緊要ナリ

二、銃ヲ常ニ完備シアラシムル爲ニハ検査スルハ勿論ナルモ絶ヘス銃ノ狀態ニ注意シ些細ナル部位ノ不具合故障ト雖モ看過スヘカラス

三、點射連續射撃ノ常用限度ハ三〇〇發トス。五〇〇發ニ至ルモ銃ノ機能ニハ影響ナキモ銃身加熱ノタメ銃身命數ヲ著シク短縮スルニ至ルヲ以テ特別ナレ情況ノ外常用限度ヲ超ヘサルコトニ注意スヘシ

四、手入ヲ行ハスシテ射撃ヲ繼續シ得ル彈數ハ約三〇〇發程度ナリ

多量彈ヲ發射セハ銃身「ガス」漏孔・規整子・連結管・活塞頭・活塞頭部室等ニ燼渣膠着シテ機能ヲ害スルニ至ルヲ以テ圓筒手入棒及「ガ

0520-3

ス」かきヲ以テコノ部ノ手入ヲ完全ニ行スコト肝要ナリ

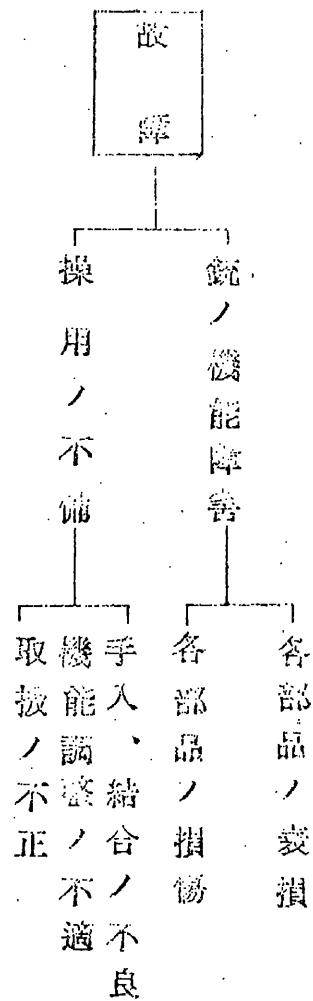
九九式普通雷管包ハ被甲ノ材質九二式普通雷管包ト異リ、インガン黄銅製ナル關係上被甲力盛重ト共ニ相當多量ニ銃身ノ「ガス」漏孔、規整子、活塞頭等ニ膠着シ且射撃後時間ヲ經ルニ隨ヒ冷却シ除去一層困難トナルヲ以テ特ニ留意シ機會ヲ得ル毎ニ各部ノ手入ヲ行フヘシ

機軸銃ノ機軸ハ連續シテ激烈ナル運動ヲナスヲ以テ機軸部ノ塗油ノ缺乏ハ故障ヲ生起シ易シ機軸部、藥室等ニハ常ニ適度ニ塗油スルノ外各部ヲ精細ニ點檢シ軌リ及摩擦ノ狀況ヲ調査シ之ヲ防止スルニ努ムヘシ
其「ガス」壓ノ調節ハ機能調整ノ主体ヲナスモノニシテ之カ適否ハ直ニ銃ノ機能ニ影響シ「ガス」壓過強ナルトキハ銃ノ震動ヲ大ナラシメ命中精度ヲ害スルノミナラス部品ノ損傷並故障發生ヲ誘致シ且各部品ノ寿命ヲ短縮スルヲ以テ決定スヘキ「ガス」壓ハ連發可能ニシテ單發ヲナシ得ル範圍ニ於テ最小ナルヲ要ス

故ニ之カ調節ニ方リテハ「ガス」壓最小ノ點彈子分數1ヨリ試ミ一度決定後ハ安リニ變スヘキモノニアラスト雖モ復坐はねノ強弱、銃尾機

砲ノ圓滑度、天候氣象等ニ依リ適度ナラシムルヲ要ス
 六 砲倉機能ノ良否ハ本銃ノ故障（送彈不良、突込）ニ最モ影響スルヲ以
 テ之カ取扱手入検査等ニハ特ニ注意シ口金部ノ變形竝ニ彈倉体ノ打痕
 變形塵埃、泥土ノ附着等ニハ特ニ注意スベシ

七 彈倉ニ實包ヲ裝填シ之ヲ銃ニ裝着スルニ當リテハ二、三回指頭ヲ以テ
 テ實包ヲ内方ニ押シ込ハ口金部ヲ上方ニシテ底部ヲ輕ク叩キ口金拘彈
 部ノ彈列ヲ整正ナラシメタル後裝着スル如ク注意スベシ
 八 銃ノ故障發生ハ銃ノ機能障害ニヨルモノト操用不備ニヨルモノトアリ



各品ニ就テ故障豫防ノ爲ニ備上注意スヘキ事項次ノ如シ

名	稱	部	品	(部)	位	原因トナル事項	生	起	ス	ヘ	キ	故	障
彈	倉	口	金	抱	彈	変形	突	二	重	装	込	送	彈
		口	金	部	内	側	突	込	送	彈	不良		
銃	身	銃	身	止	ノ	入	銃	身	ノ	動	作	不良	
		銃	身	止	ノ	入	銃	身	ノ	動	作	不良	
規	整	子	ガ	ス	漏	レ	ガ	ス	漏	レ			
		子	ガ	ス	漏	レ	ガ	ス	漏	レ			
「ガ	ス	ポン	プ	内			ガ	ス	漏	レ	後	退	不足
尾	筒	底	復	坐	ば	ね	出	不	良				
		底	復	坐	ば	ね	出	不	良				
活	塞	前	端	外	周	(頭部)	軌	リ	ガ	ス	漏	レ	後
		前	端	外	周	(頭部)	軌	リ	ガ	ス	漏	レ	後
圓	筒	下	面	ノ	切	込	雷	管	突	破			
		下	面	ノ	切	込	雷	管	突	破			

0523

撃	抽	門	銃	彈	逆	積	腕	門
華	筒	子	身	倉	鉤	桿	子	子
下	は	子	止	止	逆	活	子	子
方	は		桿	有	鉤	塞		
突	ね			鉤	壓	ニ		
起				部	桿	カ		
部	部			ね	部	ル		
反	磨	反	打	衰	欠	衰	打	衰
損	損	起	痕	損	損	損	痕	損
折	磨	打	痕	磨	磨	磨	痕	磨
損	被	離	痕	損	裂	損	損	損
起								
不	抽	門	銃	彈	擊	積	腕	門
發	筒	子	身	倉	發	桿	子	子
	不	連	結	動	機	離	出	子
	良	動	合	搖	能	進	不	ノ
		阻	困	離	障	ヲ	良	作用
		礙	難	脫	害	阻		不良
						害		
						不		
						發		
						生		
						ス		

0524

其ノ二

銃身止ノ操作、銃身交換及修正環

正環ナルモノヲ使用ス

一、本銃ノ銃身緊定ニハ從來ノ輕機、重機ノモノト其ノ趣キヲ異ニシ銃身ニ絶對交換性ヲ附與スル爲、又實包ノ壓入量ヲ矯正スル目的ヲ以テ修

銃身止ノ桿部及銃身ノ銃身止ニカカル切込ノ後壁ハ共ニ斜面ヲ形成ス銃身止ヲねぢ込ミ銃身ト修正環ト密着スルニ至ル迄「スバナ」ニテ緊定ス

本銃銃身止ノ操作上注意スヘキ事項次ノ如シ

取扱

1 銃身結合ノ際ハ修正環ノ小ねぢハ戻回シアラサルヤヲ點檢スヘシ
2 緊定ねぢハ「スバナ」ニヨリ固クねぢ着クヘシ手力ヲ以テ緊定シ其ノ不充分ナルトキハ數十發發射後緩解スルコトアルヲ以テ注意ヲ要ス

尙緊定ねぢノ「1.2.3.1」ノ刻字ハ緊定ノタメノ補助數字ナリ例ヘハ固ク緊定シタトキ「5」ナル刻字カ上部中央ニアリテ銃身ノ緊定度適當ナルトキハ轉後ノ緊定ハ「1」ナル刻字カ固ク緊定シタ

ルトキ上部中央附近ノ銃身ノ緊定度ハ良好ナリト云ヒ得ルナリ

3 新タニ支給セラルル銃ハ修正環ヲ調節決定シアルモ銃身ヲ交換セハ修正環ヲ決定スルヲ要ス

新タニ銃ヲ交換スル場合修正環ハ概ネ厚サ一耗三(1.3ト刻字セルモノ)ノモノニテ可ナルモ射撃ノ結果藥莢切レ焼付傾向ニ因ル抽筒不良或ハ蹴出不良續出ノ際ハ厚サ一耗二(1.2ト刻字セルモノ)ノ修正環ト交換ス尙前記故障ヲ生マルトキハ更ニ厚サ一耗一(1.1ト刻字セルモノ)ノモノトスヘシ

又反對ニ射撃ノ結果不發續出シ又ハ閉鎖不良ヲ生スルトキハ修正環ノ厚サ一耗四(1.4ト刻字セルモノ)ノモノト交換スヘシ

銃ニ附屬スル空包銃身ハ必スシモ銃身ト同一修正環ニテ良好ナル結合ニテ射撃スルニアササルヲ以テ空包銃身ヲ適合セハ之ニ應スル修正環ノ厚サ一分厚及銃手ノ記憶シアルヲ要ス

1 新タニ支給セラルル銃ニハ一。三耗、若クハ一。二耗ノ修正環裝着シアリ

2 一度決定シ良好ナル關係ニアル修正環ハ數千發ノ射撃ニハ通常交換ヲ要セス

3 多發彈ヲ發射セル銃身ニシテ藥室磨耗擴大シ藥莢切レ燒付等ヲ生スルニ至レハ實包ノ壓入量ヲ適當ナラシメ之等ノ故障ヲ防止スル目的ヲ以テ修正環ハ〇。一耗薄キモノト交換スルヲ要ス

4 更ニ射撃ヲ續行シ前記故障ヲ生起スルニ至レハ修正環ハ薄キモノト交換ス

5 射撃ノ結果實包ノ壓入量大ナルタメ不發續出シ又ハ閉鎖不良ヲ生スルトキハ修正環ヲ厚キモノト交換シ故障ヲ防止スヘシ

其ノ三 射撃間ノ注意竝ニ應急處置

一銃ノ手入及組合不良ニ機能ノ調製不良竝ニ射撃動作ノ不正確等ハ故障發生ノ主ナル原因トナルヲ以テ廢々銃ノ手入及機能ヲ檢查シ以テ其ノ適確ヲ期シ故障ノ排除並ニ豫防ニ努ムヘシ

二射撃間故障ヲ生シタル際ハ先ツ槓桿ヲ手テ支へ蹴出口ヨリ故障ノ狀況ヲ點檢シ其ノ原因ヲ調ヘタル後槓桿ヲ十分後退シ銃尾機關ヲ開キ彈倉ヲ離脱シ故障ヲ排除スベシ

三蹴出口ヨリ故障ニ逢彈不良、突込等ハ狀況ノ點檢ヲナシ得サル場合ニハ槓桿ヲ活塞ノ相當鈎部ニカカル迄引キタル後彈倉ヲ離脱スルヲ要ス

四故障ノ原因ヲ發見スルニハ生起セル現象ヲ基礎トシテ判斷スヘキモノニシテ次ノ諸項ハ有力ナル資料トナルモノナリ

1. 銃ノ固有癩癩、
2. 發射中ニ於ケル爆音及其ノ調子、藥莢蹴出ノ狀態、藥莢雷管ノ衝痕、藥莢ノ起緣部其ノ他景況

3 故障發生ノ時期ノ彈倉ノ初期ナリヤ終期ナリヤ、多發彈發射後ナリヤ又分解ノ前後ナリヤ

4 射手ノ動作（引鐵ノ操作）

四 活塞後退不足ハ諸種ノ故障ノ原因トナルヲ以テ常ニ其ノ原因ヲ調査シ之カ防止ニ努ムヘシ

然シテ其ノ原因ハ主トシテ射撃間ニ於ケル銃身ノ「ガス」漏孔、規整子、活塞頭ニ塵渣ノ蓄積、規整子ノ圓筒部、活塞頭ノ磨損竝ニ銃尾機關ニ藥物介在ハ反起ノ生起若クハ藥灰ノ燒付等ニ因ルヲ以テ狀況之ヲ許ス毎ニ手入ヲ實施シ又ハ反起ヲ除去スル等之カ發生ヲ豫防スルコト必要ナリ

右ノ點檢ヲ行ヒタル後尙後退不足ヲ生スル時ハ規整子分畫ヲ調節シ「ガス」壓ヲ適當ナラシムルヲ要ス

五 射撃間故障排除ノタメ彈倉ヲ脱シタル後ハ藥室内ニ實包殘留シアラサ

ルヤヲ確メ不慮ノ危害ヲ防止スルヲ要ス
六 射撃中ニ於ケル主ナル故障ハ發彈不良、抽筒不良、蹴出不良、突込不

發及閉鎖不良、藥莖切レ、點射不能ニシテ之カ主ナル原因竝ニ排除ノ要領次ノ如シ

故障種類	原因	排除	要領	摘	要
送	彈倉内ニ於ケル送	彈倉内ニ於ケル彈列ノ亂レ、彈倉内ニ異物ノ侵入及變形ニ基クテ以テ彈倉ヲ脱シ指頭ヲ以テ或ハ彈倉底部ヲ輕ク叩キ實包ノ變位ヲ矯正ス	彈倉内ノ彈列亂レ送彈不良トナルコトアルヲ以テ彈倉ニ裝填シタル後ハ指頭ヲ以テ實包ヲ二三回押シ彈列ヲ整フルヲ可トス		
彈	彈倉口金部ニ於ケル實包ノ變位	彈倉口金部ニ於ケル彈列ノ變位ヲ修正ス	彈倉口金部ノ變形ヲ修正ス	彈倉内ノ彈列亂レ送彈不良トナルコトアルヲ以テ彈倉ニ裝填シタル後ハ指頭ヲ以テ實包ヲ二三回押シ彈列ヲ整フルヲ可トス	
不	彈倉はねノ變形、衰損、不具合	彈倉はねノ變形、衰損、不具合ハ修理或ハ交換ス	彈倉はねノ變形、衰損、不具合ハ修理或ハ交換ス	彈倉内ノ彈列亂レ送彈不良トナルコトアルヲ以テ彈倉ニ裝填シタル後ハ指頭ヲ以テ實包ヲ二三回押シ彈列ヲ整フルヲ可トス	
良	三十一發以上發彈スルトキ	三十一發以上發彈スルトキ	三十一發以上發彈スルトキ	三十一發以上發彈スルトキ	
良	活塞ノ復坐不良	活塞ノ復坐不良	活塞ノ復坐不良	活塞ノ復坐不良	
良	活塞ノ復坐方減退	活塞ノ復坐方減退	活塞ノ復坐方減退	活塞ノ復坐方減退	

突	不出	抽筒
彈倉口金部ニ於ケル實包ノ變位 藥室内ニ藥夾殘置 活塞ノ後退力過強	蹴子ノ蹴出作用ノ不良 抽筒子ノ機能不良 蹴子ノ變形・蹴子頭部或ハ後部ノ磨減等ヲ點檢シ之ヲ矯正ス	抽筒子爪部ノ缺損 又ハ衰損 抽筒子ばねノ衰損 折損 抽筒子ばね筒磨損 變形 藥夾ノ燒付 同 石 同 石 同 石
彈倉口金部ニ於ケル實包ノ變位 彈倉口金部ヲ僅カニ修正ス 藥室内ニ點檢スルヲ要ス 活塞ノ後退強キ爲次 實包ヲ變位セシムルコトアリ	蹴出不良ハ抽筒不良ト同時ニ生起スルヲ以テ抽筒子ノ良否ヲ點檢スルヲ要ス 尙藥夾ニ印セル蹴子ノ作用セル箇所並ニ其ノ強サ等ヲ調査スルヲ要ス	豫備品ト交換ス 尾筒内ニ殘留セル藥夾ハ打殼拔又ハ藥夾缺ヲ以テ除去ス 藥夾起緣部ヲ點檢シ抽筒子爪ノ掛リ具合ヲ調査スルヲ要ス

0531

不	發	及	閉	鎖	不	良
規整子筒ニ燼渣ノ蓄積 擊塞ノ軌リ	銃尾機關ノ軌リ	復坐はねノ衰損	擊塞折損	活塞止ノ結合不良	圓筒及活塞頭ニ「ガス」燼渣蓄積	實包壓入量ノ過大 擊塞過短
規整子ニ堅ク燼渣蓄積シ活塞ノ前進力ヲ阻ムヲ以テ手入ヲ勵行ハシ 擊塞下端圓筒ト軌リヲ生シ前進ヲ阻ムヲ以テ之ヲ除クヘシ 活塞及圓筒ノ軌リ又ハ銃尾機關内ニ異物ノ介在ノタメ銃尾機關ノ前進力ヲ阻害セラルルヲ以テ之ヲ除去スヘシ 復坐はねノ衰損又ハ變形セルモノハ交換ス	擊塞交換	活塞止ノ左右鉤部ヲ反對ニ結合セルコト	圓筒擊針孔内部、活塞頭等ノ「ガス」燼渣ヲ除去	修正壞ヲ厚キモノト交換ス	豫備品ト交換ス	(雷管ノ夾底ヨリ著シク凹ミタルモノハ不發トナルコトアリ)
燼渣ハ多數彈發射ニ伴ヒ被甲ト共ニ蓄積ス 活塞止ノ左右鉤部ヲ反對ニ結合スルトキ半閉鎖トナリ不發トナル本故障ハ射擊開始ノ第一彈ニ生起ス						

0532

七、折損部品ノ介在又ハ部品ノ反起等ヨリ活塞ノ後退不能ニ陥リタル際之

ヲ抽出スルニハ尾筒底ヲ離脱シタル後銅鎗又ハ黃銅桿ヲ以テ槓桿基部

ヲ輕打シ又ハ後方ヨリ活塞ノ後端面ヲ前進セシメツツ交互ニ鎗打シ其

ノ緩解ヲ圖リ其ノ動作ヲ反復スヘシ

此ノ際銃ヲ轉倒或ハ橫轉等具ノ姿勢ヲ種々變換セシメツツ行フヲ有利

トス

八、射撃間ト雖モ機會ヲ得レハ努メテ手入ヲ行ヒ常ニ銃ノ機能ヲ完全ニ保

持スルコトニ留意スルヲ要ス

手入實施ノ要領ハ利用シ得ヘキ時間ノ長短ニ應シ異ナルモ主トシテ機

能上故障ノ原因ヲ除キ要部ノ機射ノ後塵渣ノ附著異物ノ介在シ

易キ部位ノ手入ヲ行ヒ或ハ磨練多キ部分ニ塗油スル等狀況ニ應シ機敏

ニ點檢手入ヲ行フコトモ留意スヘシ

塵渣ノ附著シ易キ部位左ノ如シ

1 腔中、藥室

2 銃身後端部

- 3 圓筒擊室
 - 4 圓筒包底面
 - 5 活塞頭竝「ガス」ポンプ内部
 - 6 規 子
 - 7 銃身ノ「ガス」漏孔、連結管ノ漏孔
 - 8 尾筒内部
 - 兵物ノ介在シ易キ部位左ノ如シ
 - 1 藥 室
 - 2 門子室
 - 3 彈倉内部
 - 4 彈倉室
 - 5 尾筒内部
- 九、多數彈發射セハ腔中ニ被甲附着シ腔中膨脹ノ基因トナルヲ以テ被甲貫
 包ヲ以テ除去スヘシ此ノ場合ハ實包射撃ノ最後ニ引續キ銃身加熱シ
 ル間ニ連續三〇發以上發射スルヲ可トス

0535

其ノ四 日常ノ手入及取扱上ノ注意

一、日常ノ手入ハ通常普通分解ヲナシ左記ノ要領ニテ實施スルヲ可トス

區分	手入	要	領	柄	要
外	1 布片等ヲ以テ外部ノ舊油、汚垢、泥土及着色部ノ油氣ヲ拭淨ス				
内	2 凹部ノ隅角部等ハ木片又ハ竹片ニ布片ヲ被セタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	3 着色部ハ強磨スヘカラス（照門ハ特ニ注意スヘシ） 4 泥土、砂ノ固着セルモノハ綿布ヲ以テ之ヲ濕シタル後徐ロニ除去シテ光澤ハ拭淨スヘカラス 5 照星、照門ノ夜光管ハ拭淨スヘカラス				
内	1 布片ヲ以テ舊油、汚垢等ヲ拭淨シ油布ヲ以テ輕ク塗布シ				
部	2 隅角部ノ手入ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	3 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	4 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	5 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	6 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	7 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	8 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	9 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				
部	10 凹部ノ隅角部等ハ木片及竹片等ニ布片ヲ被ラセタルモノヲ以テ密ニ拭淨スヘシ				

圓筒手入棒甲ハ銃身ノガ
ス漏孔ヲ手入シ得ス
依而手入具ノ整備ヲ要ス

腔	中	藥	彈	合			
腔中藥室ハ銃身ノ要部ニシテ其ノ良否ハ直接命中精度並命 數ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲ保存手入ニハ十分周密 ナル注意ヲ以テ實施スルヲ要ス	1 銃身ヲ略々水平ニ上ニ托シ棚杖若クハ洗矢ニ洗管ヲ裝 シ銃口蓋ヲ通シ之ニ布片ヲ巻キ腔中ニ挿入シテ二回輕ク 舊油ヲ拭淨スヘシ	2 藥室手入棒ノ先端割目ニ布片ヲ巻キ藥室内ノ舊油ヲ拭淨 シ然ル後油布片ヲ洗管若クハ藥室手入棒ニ巻キ腔中及藥 室ニ舊油スヘシ	3 棚杖・洗矢ヲ通退セシムルニ方リテハ銃腔ノ一部ノミニ 止ラス全數ニ亘リ通退セシムルコトニ注意シ偏磨ヲ避ク ルヲ要ス又棚杖洗矢ハ銃身軸ト同一線上ニアル如ク使用 シ洗矢ノ屈曲セルモノハ修正シテ使用スルヲ要ス	4 過度ノ拭淨ハ腔面ノ砥粒ヲ來シ「メツキ」部ノ剝脫ヲ速 カナラシメ銃身ノ筒壁ヲ短縮セシムルヲ以テ手入ニ方リ テハ過度ノ狀態ト布片汚損ノ原因ヲ願願シテ二回輕ク拭 淨シテ舊油スルコト	1 手入ヲ行フニハ布片等ヲ以テ泥土、塵埃、舊油等ヲ拭淨 ス外ニ應シ彈倉ニハ薄ク塗布スヘシ	2 所要ニ應シ彈倉ヨリはね受板、彈倉ばね、彈受ヲ脱シ此 等ノ部品及彈倉内ヲ拭淨シ舊油スヘシ	3 風塵甚ダシキハ彈倉ヲ除去シ塵埃ヲ除去スヘシ 砂ヲ除去スハシ
藥室及「ガス」漏孔ハメツキ」シアラサルヲ以テ必ス手落ナク毎回入念ニ手入ヲ要ス							

0537

二、風塵甚タシキ時ニ於テ使用スル場合ニハ概ネ左記ニ注意スヘシ

1 塵埃ノ附着侵入ヲ防ク爲ニハ外部ノ塗油量ヲ輕減シ且成ルヘク使用直前迄銃口蓋、銃覆ヲ裝シ置ク如クスルヲ可トス

2 銃覆等ノ内部ハ特ニ清潔ニシ塵埃ノ附着ヲ防止スヘシ然ラサレハ銃外部ノ搔痕着色部ノ剝脫等ヲ生ス

三、雨雪ヲ被ル虞アル場合ニ於テハ塗油量ヲ多クシ且狀況之ヲ許セハ銃口蓋、銃覆等ヲ裝スルニトニ注意スヘシ

四、特ニ風塵甚タシク或ハ雨雪等ヲ蒙リタル時ハ成ルヘク速カニ手入ヲ行フヲ可トス特ニ銃ノ内外部ニ附着セル水分ハ發錆ヲ速カナラシムルノミナラス其ノ儘射ヲスル時ハ腔中ニ存スル水滴ノ爲銃腔ヲ膨脹スルヲ以テ注意スルヲ要ス

五、風塵及雨雪ヲ被リタル時ハ日常ノ手入ヲ行フ前ニ左ノ手入ヲ實施スヘシ

區分	手	入	要	領	注	意	事	項	其	他
腔	1	雨	雪	侵入	シタル	トキ	ハ	乾	布ヲ	十分
水	氣ヲ	吸	收	シ	除					
去	シタル	後	塗	油	スヘシ					
特	ニ	手	入	困	難	ナル	隅	部	ニ	水
分	ノ	残	ラ	サル	様	注	意			
ス	ヘシ									
2	砂	塵	入	シタル	場	合	ニ	ハ	洗	管
ニ	銃	口	外	ニ	押	シ	出	シ	布	片
ヲ	交	換	シ	テ	之	ヲ	反	覆	シ	
全	ク	砂	塵	ナ	キ	ヲ	確	メ	タル	後
塗	油	ス	ヘシ							
1	乾	布	ヲ	以	テ	十	分	水	氣	ヲ
除	去	シ	特	ニ	手	入	困	難	ナル	隅
部	等	ニ	水	氣	ヲ	残	留	セ	サル	コト
ニ	注	意	ス	ヘシ						
2	砂	塵	ノ	除	去	ニ	方	リ	テ	ハ
之	ヲ	其	ノ	面	上	ニ	壓	著	セ	サル
コト										
1	泥	土	附	着	セ	シ	ト	キ	ハ	過
度	ニ	磨	擦	ス	ル	コト	ナ	ク	且	他
ヲ	汚	損	セ	サル	如	ク	拭	淨	ス	ヘシ
2	漆	剝	脱	シタル	モ	ノ	ハ	該	部	ヲ
揮	發	油	ニ	テ	拭	淨	シタル			
後	ニ	塗	油	シ	其	ノ	吸	收	ヲ	待
ツ	テ	乾	布	ヲ	以	テ	試	磨	ス	ヘシ
子	被									
ハ	特	別	分	解	ヲ	行	ヒ	手	入	
ヲ	行	フ								
3	金	逆	鉤	逆	鉤					
4	逆	鉤	逆	鉤						
5	逆	鉤	逆	鉤						

0539

六極寒時ニ於ケル取扱手入ハ前述ノ外左ノ事項ニ注意スヘシ

1 満洲ニテハ内地ト異リ濕氣少ナキヲ以テ金屬製品ニ塗油セサルモ發

錆ノ虞ナキヲ通常トス然レトモ之ニ馴レテ注意ヲ怠リ却ツテ發錆又

ハ腐蝕セシムルコトアリ、屋外ニ於テハ兵器ハ假令油ヲ施ササルモ

空氣中ノ含有水分僅少ナルヲ以テ發錆ノ虞レ少シト雖モ屋内ニ搬致

スルトキハ屋内ノ鐵部ニ凝結シ其ノ蒸發ト共ニ發錆ヲ促スヲ以テ十

分水分ヲ拭淨シタル後塗油スルヲ要ス

2 島品中ノ豫備品ニハ「ベトロラタム」ヲ塗布スルコトナク耐寒性潤

滑油又ハ「ワセリン」ヲ用フヘシ

3 はね類ハ寒氣ノ爲抗力ヲ減シ衝力ニ因リ折損スルコトアリ故ニはね

類殊ニ復坐はね等ハ使用上必要以外ノ力ヲ加フルコトヲ避クヘシ特

ニ零下三十度以下ノ場合ニ於テ然リトス

4 鐵部ノ冷却甚タシキトキ直接之ニ手觸等ヲ觸ルルトキハ皮膚ヲ損傷

スルコトアルヲ以テ取扱上注意ヲ要ス

七酷暑時ニ於テハ前述ノ外左記ニ注意スヘシ

1 防擦ノタメ「スピンドル」油ノ效果十分ナラサルトキハ菜種油・白
絞油又ハ「マシン」油等ノ如キ粘度大ナルモノヲ使用スルヲ可トス
2 炎天下ニ於テハ特ニ油ノ流出又ハ乾燥甚タシキヲ以テ油ノ不足ナキ
ヤニ注意スヘシ

ハ眼鏡ハ通常必要ナキ場合ハ離脱シ置クヲ可トス
大眼鏡ノ手入ハ兵器保存要領第二卷第九編ニ準據シテ行フヘシ

0541

其ノ五 射撃後ノ手入及注意

一射撃後ニ於ケル手入ノ良否ハ銃特ニ腔中、藥室ノ保存ニ影響スルコト大ナルヲ以テ手入ノ時機ヲ失セサルコト及其ノ方法ヲ誤ラサルコトニ注意ヲ要ス

疲勞困憊セル時雨雪天特ニ極寒時或ハ夜間射撃後等ニ於テ然リトス射撃後ハ發錆ヲ防止シ附着塵埃ノ除去ヲ容易ナラシムルタメ直チニ手入ヲ行フヲ可トス若シ直チニ手入ヲ行フノ餘裕ナキ時ハ稍々多量ニ腔中油或ハ「スピンドル」油ヲ塗布シ塵埃ヲ浮キ出サシメ一時内部ノ發錆ヲ防止スルト共ニ爾後ノ手入ヲ容易ナラシムルコトニ著意スヘシ射撃後ノ手入ハ左記ニ依リ行フヲ可トス

手入 要領 注意事項 其他

- 洗滌液
- 1 腔中洗滌液又ハ側砂液ニテ洗滌ス 洗滌液ハ要スレハ下洗用、中洗用上洗用等ノ數段ニ區分シテ行フヲ可トス
 - 2 布片ニテ拭淨シ腔中ヲ點檢シ腔中油ヲ塗布シテ數時間乃至十數時間放置シ發錆ノ素因

<http://www.jacar.go.jp>

規管 管上孔	子カ 連「ス」	銃 尾機	ガボ シ	其 他
射手餘 1腔中油ナキトキハ「スピンドル」油ヲ稍 々多量ニ塗布シ一時發射ヲ防止スルト同 時ニ爾後ノ手入ヲ容易ナラシム 直行中 チフト ニラキ	腔中藥室ノ手入ニ準ス	「ガス」ヲ蒙リ燐渣附着セル部分ハ機ヲ失セス成 ルヘク速ニ腔中藥室ニ準シ腔中洗滌液又ハ棚砂液 ニテ洗滌スルカ又ハ腔中油ニテ拭淨スヘシ	1「ガスポンプ」内部ハ腔中藥室ニ準シ行フ 2燐渣附着シ洗滌ニヨリ除去困難ナル部分ノ手入 ニハ「ガス」搔ヲ使用ス此際各部ニ反起ヲ生セ シメサルコト	日常ノ手入ニ準ス
		活塞頭部、圓筒包底面、同擊室及 彈室先端等直接「ガス」ヲ蒙ル部分 ヲ放置スルトキハ腐蝕シテ射擊機能 ヲ害スルニ至ルヲ以テ特ニ手入ニ注 意スルヲ要ス		

0544

三、射撃後實施スル分解手入ニ方リテハ特ニ各部品ノ損傷ナキヤヲ點檢ス
ルコト必要ナリ

機能上特ニ重要ナル部位ニ於テ然リトス

其ノ點檢スヘキ事項ヲ列擧スハ次ノ如シ、

- 1 連結管ト銃身及規整子トノ結合部ニ「ガス」漏レナキヤ
- 2 連結管頭部ト「ガスポンプ」トノ結合部ニ「ガス」漏レナキヤ
- 3 銃尾機關ノ各部ニ軌リ（當リ）ノ徴候ナキヤ
- 4 銃身後端ニ圓筒若ハ抽筒子ノ衝痕ナキヤ
- 5 活塞頭ノ磨損ニヨル「ガス」漏レノ傾向ナキヤ
- 6 活塞特ニ凸起部等ニ打痕反起若クハ龜裂ナキヤ
- 7 圓筒ノ銃子通路ニ反起ナキヤ、圓筒内部及擊莖室ニ反起ナキヤ
- 8 圓筒ニ龜裂ナキヤ

8 門子ニ龜裂及反起ヲ生シ又ハ甚タシク磨損シアラサルヤ

9 擊莖ニ打痕變形ナキヤ

10 抽筒子爪部同ハね筒損傷シテササル時ニ於テ

0545

- 11 活塞止及同はねノ損傷ナキヤ
- 12 活塞止ニ疵痕反起ナキヤばね異狀ナキヤ
- 13 彈倉口金ハ變形打痕ナキヤ
- 14 照準具ニ損傷ナキヤ
- 15 彈倉室蓋蹴出口蓋ノばねノ機能良好ナリヤ
- 16 蹴子ノ變形竝打痕ナキヤ
- 17 各種ピン、軸、栓等ノ動搖ナキ

0546

其ノ六 分解結合上ノ注意

一、分解結合ハ普通分解（結合）及特別分解（結合）ニ區分ス

二、分解結合ハ決シテ躁急ナルヘカラス且分解結合困難ナル時ハ強ヒテ之ヲ行フコトナク幹部ノ指示ヲ受クヘシ

三、分解（結合）ハ規定ノ順序方法ニ違フコト

四、分解結合ニ際シテハ左記ノ事項ニ注意スヘシ

1 分解結合ヲ行フニハ先ツ之ニ必要ナル諸器具及材料ヲ準備檢査シ置クコト

2 ねぢ類ノ分解結合ニ當リテハねぢ山ヲ毀損セサルコトニ特ニ注意スヘシ、螺脱困難ナルモノハ油ヲ施シ暫時之ヲ放置シタル後除々ニ分解シねぢ溝ヲ損セサルコトニ注意スルコト

3 槌類ヲ使用スル場合ハ木槌或ハ黃銅鎚以外ノモノヲ使用スヘカラス若シ之等ヲ使用シ得サル時ハ必ス木片等ノ介在物ヲ使用シ決シテ直接打撃スヘカラス

4 止栓或ハばねヲ包藏スル部分ハ分解ニ當リテハ之ヲ飛散セシメサル

コトニ注意スヘシ又結合ニ當リテハ栓ハ挿入方向ヲ誤リ或ハばねハ
變形セシメサルコトニ注意スヘシ

5 結合後ハ必ス引鐵ヲ引キタル儘横桿ニテ活塞ノ前進後退運動ヲ二、
三回繰返シ往復運動ノ機能ヲ點檢シタル後、活塞ヲ前進ノ位置トナ
シ置クヘシ

0548

第七 射撃前後の検査

射撃前ニ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

一銃身ノ結合ハ確實ニシテ腔中、薬室ニ異状ナキヤ

修正環ハ装着シテ入リ、ねぢハ確實ニ螺入シアリヤ點檢ス

修正環ハ刻字が見エル如ク取附ケルモノトス

二銃身止ノ締めねぢハ具合ハ適當ナリヤ手ニテ戻回セサルヤ點檢ス

三腔中、薬室ヲ視視シ異状無キヤ點檢ス

四規整子分置ハ適當ナリヤ

調整セル規整分置ナリヤ否ヤ檢ス

五銃出口蓋結合確實ニシテ離モタル位置ハ確實ナリヤ

銃出口蓋ハ遊底ヲ開退ス後發射トリカレばねニ依リ開カレタル位

置ヲ保ツヲ以テカカル状態維持セラルヤ否ヤ點檢ス

六銃子ノ結合確實ナリヤ

七活塞止ノ結合ハ正シキヤ

八活塞止ノ左右鉤部ヲ反對ニ結合スルト半閉鎖トナリ不發トナルヲ以テ

點檢スルコト肝要ナリ

六 擊莖、抽筒子ハ完全ナリヤ

抽筒子ヲ圓筒ニ結合シタル後圓筒包底面ニ擬製彈（若クハ實包）ヲ挿入シ圓筒ヲ輕ク振りタル際擬製彈（黃色）カ落下セサレハ抽筒子（ばね）ハね筒ハ良好ナル狀態ニアリ

七 尾筒底ノ結合確實ナリヤ

八 銃尾機關ノ前進後退ハ圓滑ユシテ軌ルコトナキヤ

左手ヲ以テ引金ヲ引キ活塞ト逆鉤トノ關係ヲ絶チ左手ヲ以テ成シ得ル限リ迅速ニ槓桿ヲ進退シテ銃尾機關ヲ動カシ點檢ス

九 彈倉ハ左ノ件ニ留意スヘシ

1 彈倉ニ實包ヲ裝填セシ後ハ口金抱彈部ノ彈列整正ナリヤ又内部ノ彈列モ整正ナリヤ二、三回指頭ヲ以テ實包ヲ押シ異狀ナキヤヲ檢スヘシ

2 彈倉口金抱彈部ハ變形反起シアラサルヤ

3 彈倉口金部ニ塵埃附着シアラサルヤ

0550

照準線ノ位置ハ鏡ニ眼鏡ヲ裝着シ左ノ要領ニ依リ行フヘシ

鏡口前五〇米ノ位置ニ概ネ鏡ト同高ニ左圖ノ如キ標板ヲ置ク

照尺ノ射距離分畫ヲ三〇〇米、方向ヲ零トシ照星照門ヲ用ヒ黒點ノ

下際ヲ照準シ鏡ヲ其ノ位置ニ固定ス

眼鏡ヲ用ヒ標板上ニ眼鏡照準線ノ位置ヲ求メ焦點「ガラス」ノ分畫

ニヨリ垂直及方向ノ誤差ヲ着讀シ之ヲ修正最トス

良好ナル眼鏡ニテハ三〇〇米ノ目盛カ標板ノ黒十字ノ中央ニアルヘ

キモノナルモ標板上黒十字ヲ含ム短形内ニアレハ可ナリ。



射撃間検査スヘキ事項左ノ如シ

一、單發機能ノ良否ヲ検査ヘシ

機能不良ハ主トシテ「ガス」壓ノ過小若クハ活塞運動ノ圓滑ナラサル
ニ基ク活塞ノ後退不足ニ因ルモ稀ニ逆鉤及活塞ノ逆鉤段部著シク磨損
セルカ又ハ逆鉤ばねノ衰損、折損竝ニ引金逆鉤壓桿ノ機能不具合等ニ
因ルコトアリ

二、發機能ノ良否ヲ検査ヘシ

1 爆音ノ調子ニ留意スルコト緊要ナリ

而シテ速度頗ル速ク打撃藥莢過激ニ蹴出サレルカ或ハ速度緩慢ナル
カ又ハ中途ニ於テ緩トナリ若クハ調子不良ニシテ打撃藥莢ノ蹴出不
整ニ陥ルコトナキヤ検査ス

2 抽筒不良ナラサルヤ

3 蹴出不良ナラサルヤ

4 送弾不良ニナラサルヤ

2 3 4 項ハ其ノ三ノ六ノ要領ニ依リ故障ヲ排除ス

0552

三時々蹴出セシ打殺薬莖ニ就キ薬莖衝痕及蹴子痕ノ状況等ヲ檢シ故障發見ニ資スヘシ

射撃後ハ分解手入ヲ行フニ先タチ各部品ニ損傷ナキヤヲ檢スヘシ

一、連結管ト銃身及規整子トノ結合部ニ「ガス」漏レナキヤ

二、連結管筒部ト「ガスポンプ」トノ結合部ニ「ガス」漏レナキヤ

三、銃尾機關ノ各部ニ軌リナキヤ

四、活塞頭ノ磨損ニヨル「ガス」漏レナキヤ

五、圓筒ノ蹴子通路ニ反起ナキヤ圓筒内部及薬莖莖ニ反起ナキヤ圓筒ニ龜

裂ナキヤ

六、門子ニ龜裂及反起ヲ生シ又ハ甚タシク磨損シアラサルヤ

七、薬莖ニ打痕變形ナキヤ

八、抽筒子爪部同ばね及ばね筒損傷シアラサルヤ

九、活塞止ニ疵痕反起ナキヤばね異狀ナキヤ

十、薬莖特ニ凸起部頭部等ニ打痕反起ナキヤ、龜裂ナキヤ

十一、倉口蓋ハ變形打痕ナキヤ

三照準具ニ損傷ナキヤ

一彈倉蓋蹴出口蓋ノばねノ機能良好ナリヤ

一四番砲ピン、軸、栓等ノ動搖脱落ナキヤ

0554

其ノ七

一、本銃ニ八九九式普通實包ヲ使用ス

又九二式普通實包（但シ無起縁）及九七式普通實包ヲ使用スルコトヲ得

二、特殊實包（微甲、除銅、曳光、焼夷實包）八九二式（無起縁）ノモノヲ使用ス

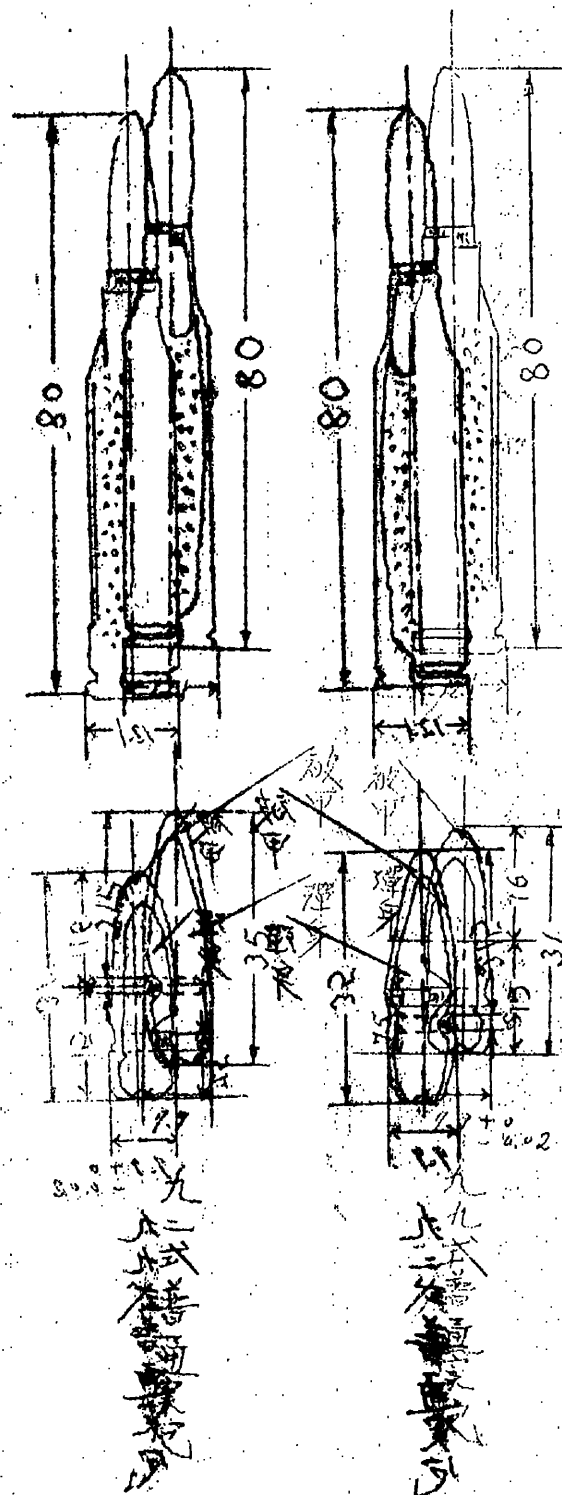
三、本銃ニ八九七式車載重機關銃ト同シク九二式重機關銃用實包ノ起縁カ半起縁ナルモノハ閉鎖不良ヲ生起シ使用不可能ナルヲ以テ特ニ注意スルヲ要ス

四、九二式普通實包八九二式普通實包ト彈丸ノ徑始竝被甲ノ金質ヲ異ニシアル關係上本實包ヲ使用セハ銃身ノ命數ハ著シク延長サル

九二式普通實包ノ構造ヲ九二式普通實包ト比較シ參考ニ供ス
九七

彈	種	被	甲	彈身	彈量	瓦	裝	藥	藥量	瓦	起	緣
九九式普通實包	マンガン黄銅	硬鉛	一、一八〇	三番管狀藥	(三番小銃藥)	二、八〇	無起緣					
九二式普通實包	銅	硬鉛	一、三、二〇	三番管狀藥		二、八五	無起緣(舊)					
九七式普通實包	銅	硬鉛	一、三、二〇	三番管狀藥		二、八五	無起緣					

注 表記ノ如ク九二式普通實包ノ無起緣ノモノト九七式普通包トハ全ク同一ナリ



0556

空包銃身（参考トセラレ度）

一、空包發射用ニシテ構造ハ九九式輕機關銃身（實包銃身ト略稱ス）ト概
ネ同型ナルモ次ノ諸點ヲ異ニス

1 口徑七九耗ニシテ腔綫ナシ

但シ實包銃身ヲ應用シタルモノハ腔綫ヲ其ノ儘トス

2 銃身「ガス」漏孔ハ四〇耗トス

3 銃身番號ノ上位ニ「空」ノ文字ヲ打刻ス

4 規整子「ガス」漏孔ハ徑三・五耗、三・〇耗、三・五耗、四・〇耗、四・五耗

ノ五種トス

三、空包銃身ヲ受領セハ念ノ爲直ニ銃身ノ「ガス」漏孔竝ニ規整子ノ「ガ
ス」漏孔ノ徑ヲ點檢ス

銃身ノ「ガス」漏孔徑三・七耗、規整子ノ「ガス」漏孔三・一耗、三・三耗

三・五耗三・八耗、三・三耗ナルトキハ活塞頭ニ作用スル「ガス」壓不足シ

活塞ノ後退不充分ニシテ連發射擊不可能ナル

三、點檢員ニ支給サルル實包銃身ニシテ銃身竝規整子ノ「ガス」漏孔徑前

0557

項ノ如キモノナキ筈ナルモ萬一該當スルモノアラハ左記要領ニ依リ改修スルヲ要ス

改修箇所		制式寸法	改修寸法	改正要領
銃身ガス漏孔徑	規整子ガス漏孔徑	二七耗	四〇耗	修理工場ヲ有スル兵器部又ハ材料廠ヲ有スル部隊ニ於テ修理ヲ實施スルモノトス
		二一耗	二五耗	
		二三耗	三〇耗	
		二五耗	三五耗	
		二八耗	四〇耗	
		三三耗	四五耗	

注意事項

1 加修ニ當リテハ銃身及規整子ノ既制漏孔中心ヲ偏心セサル如ク注意シテ作業スヘシ

四管包銃身ヲ空包銃身ニ應用スル際ニ於テハ前項要領ニ依リ「ガス」漏

孔ヲ大トスルヲ要ス

此ノ點ニ注意セサルハガス漏ルノ虞アリ

附 録 部品ノ命數

一、主要部品ノ耐久性カ作戰ニ及ボス影響甚大ナルハ言ヲ俟タス
 本輕機ハ九六輕機、十一年式輕機ニ比シ著シク耐久度ヲ増大セルト同
 時ニ部品ニ絶對交換性ヲ附與シテ爲部品ノ命數盡キ交換ノ止ムナキニ
 至ルモ從來ノ如ク適合セスル必要ナク製造上大進歩ヲナセリ
 二次表ニ主要部品ノ命數ヲ記シ取扱上ノ參考ニ資ス

九九式輕機銃 銃部品命數

名 稱	發射彈數(發)	備 考
銃身	三〇〇〇〇	一、本命數表ハ試驗當時ヨリ多量生産ニ移ル 間ノ銃ノ耐久試驗ノ結果ヲ綜合セルモノ ナリ
尾筒	一〇〇〇〇	
圓筒	三〇〇〇〇	
擊子	三〇〇〇〇	二、多量生産品中ヨリ抽出セル二銃ニ就テ耐 久度ヲ檢セルニ、一銃二萬發宛耐シ タリ
抽筒	一〇〇〇〇	
向ばね	一〇〇〇〇	
活塞	三〇〇〇〇	三、銃身ハ三萬發後ニ於テ横斷 以テ 檢ス
復坐ばね	三〇〇〇〇	

三 五 三

Q	Q	Q
O	O	O
O	O	O
O	Q	O

且陸甲磨耗モ78ト4ニシテ三萬發以上ノ命
數ヲ保持ス
活機（一二八〇〇發）擊莖（二七七〇〇發）
折損セルモノアリタルモ其他ノ主要部品ハ
何レモ三萬發以上ノ命數ヲ保持セリ

三、部隊ニ於テハ、發射彈數僅少（平時）ニシテ銃身等ハ手入ニ依リ若干磨耗シ又空包ヲ使用スル關係上右表ト完全一致スルトハ云ヒ難キヲ以テ、對射數ヲ正確ニ記入シ置キ使用不可能トナリタル部品ノ命數ヲ調査シ命數表ヲ作製スルノ要アラン。

九九式輕機關銃、分解結合

第一 普通分解（結合）

一、普通分解ニ於テ分解及離脱シ得ヘキ部品並順序方法左ノ如シ
本分解ヲ行フニハ銃尾機關ヲ閉鎖シ置クヲ要ス

一、眼 鏡

二、彈 倉

三、銃 身

四、規 整 子

五、運結管ノねぢ蓋

六、尾筒 底

七、銃尾機關

但一乃至六ハ此ノ順序ニ據ラサル一トヲ得
二、分解結合ノ方法及分解結合上ノ注意スノ如シ

0561

分解ノ方法及注意	結合ノ方法及注意
一 銃身ノ分解 1 銃身止ヲ緩メテ取外スニハ 2 銃身ヲ緩メテ止ム 3 銃身ヲ緩メテ止ム	注意 結合ハ前カニ行ヒ激突シテ銃身 ニ反起ヲ生セシメサルコト
二 銃身ノ分解 1 銃身止ヲ緩メテ取外スニハ 2 銃身ヲ緩メテ止ム 3 銃身ヲ緩メテ止ム	注意 結合ノ際ハばね受板ノ止金ヲ確 實ニ蓋ノ孔ニ突出セシメサルト シテスヘシ
三 銃身ノ分解 1 銃身止ヲ緩メテ取外スニハ 2 銃身ヲ緩メテ止ム 3 銃身ヲ緩メテ止ム	注意 結合ノ際ハ銃身止ヲ十分引出シ 且銃身ノ方向ニ注意シテ銃身止 ヲ押込ミタル後銃身止ヲ押込 ミテ着ケル

0562

四規 鑿子	連結管ヨリ規鑿子ヲ離脱スルニハ 1 分畫ノ數字ノ上ヲ摘ミ左ヘねぢ戻シテ抜出ス 2 手力ニテねぢ戻シ困難ノトキハピン抜ヲ孔ニ入レテ回ス	注意 結合ノ際ハ一度充分ねぢ入レタル後順次戻シツツ所要ノ分畫ニ合セ置クヘシ
五、連 結管 ねぢ 蓋	前方ヲ摘ミ左ニねぢ戻シテ取外スねぢ廻ノ先ヲ以テねぢ蓋ノ前方ヲ押シ下ケ乍ラ廻セハ容易ナリ	注意 十分ねぢ入レ突起ヲ確實ニ連結管ノ切込ニカカラシメ置クコト
六尾 筒 底	尾筒ヨリ尾筒底ヲ脱スルニハ 1 尾筒底ヲ右手ヲ支ヘツツ 2 左手ヲ以テ尾筒底栓ノ摘ミヲ外方ヘ引き 3 上方ヘ停止スル迄回シ 4 上方ヘ停止スル迄引出ス 5 次ニ除々ニ尾筒ノ壓迫ヲ緩メツツ復座バねト共ニ尾筒底ヲ取外ス	注意 結合ノ際ハ尾筒底栓ノ摘ミノ端筍ヲ確實ニ尾筒底ノ穴ニ入レシムヘシ
七銃 尾 機 底	(一) 活塞及遊底 1 右手ノ掌ヲ銃床ノ上面ニ受ケツツ 2 活塞ヲ後方ニ引キ(横桿ヲ舊位ニ復ス) 3 活塞及遊底ヲ引出ス 注意 横桿後部ニテ手ヲ受傷セサルコト (二) 活塞ヨリ上方ヘ脱ス (三) 銃莖ヨリ下方ヘ脱ス	注意 1 活塞頭ヲ尾筒内部ニ激突セシメサルコト 2 活塞止左方(外側)鉤部ヲ圓筒内ニ汲セシメ活塞及圓筒ノ後端面ヲ揃ヘ尾筒ニ挿シ入レルコト 注意 圓筒ヲ活塞ニ結合スル際ハ鑿莖

其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止
其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止
其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止	其體身止

一八後 脚

一九修正環、修正環ハ必要ニ應シ分解交換シ結合スルモノトス

二、分解、結合ノ要領左ノ如シ但シ結合ハ概ネ分解ト反對ナリ

(一) 照 星

連結管ヨリ分解スルニハ側方ノ蟻部端面ニ栓抜ヲ當テ輕打シ側方ニ出ス

結合ノ際ハ其ノ位置ノ正確ヲ期シ命中試験後打刻スヘシ

(二) 規 整 子

体ヨリ活筈ばね及ねぢ蓋ヲ分解スルニハねぢ廻ヲ以テねぢ蓋ヲねぢ戻シテ抜キタル後活筈及ばねヲ分解ス

(三) 銃 身 止

尾筒ヨリ銃身止ヲ分解スルニハ銃身離脱位置ニシタル後銃身止室前面ノ止ねぢヲ抜キ銃身止ヲ外方へ引出ス

(四) 彈 倉 止

尾筒ヨリ彈倉止ヲ分解スルニハピン抜ヲ以テ軸ヲ抽脱シタル後ばねト

0566

共ニ分解ス

(五) 彈倉室蓋及蹴出口蓋

尾筒ヨリ彈倉室蓋及蹴出口蓋ヲ取外スニハ軸前端ノ「ピン」ヲ抜き軸ヲ後方ニ引キ抜き彈倉室蓋向はね及蹴出口蓋、同軸はねヲ分解ス結合ニ際シテハ彈倉室蓋及蹴出口蓋ヲ適合シ蹴出口蓋はねヲ裝ス蹴出口蓋はねハ一端ヲ蓋ノ小切込ニ他端ハ餘壓ヲ加ヘ尾筒ノ彈倉室部右側ノ小孔ニ裝入シ軸ヲ逐次押入シ以テ彈倉室蓋軸はねヲ裝ス彈倉室蓋軸はねハ一端ハ室蓋ノ鋸部ニ鉤シ他端ヲ彈倉室口部上面ノ溝ニ鉤スル如ク押シツケツツ更ニ軸ヲ押入レ結合終レハ軸前端ニ割「ピン」ヲ裝ス

(六) 尾筒底栓

尾筒ヨリ尾筒底栓ヲ離脱スルニハ栓ノ溝部ヨリ尖銳ナル補助具ヲ以テ活筒ノ頭部ヲ壓シタル儘栓ヲ右側ヨリ摺ヲ以テ押し抽脱ス

(七) 門子室蓋

此ノ際手ヲ以テ栓活筒ノ落下ヲ防止スヘシ次テ栓活筒及はねヲ尾筒ヨリ抽脱ス
尾筒ヨリ門子室蓋ヲ離脱スルニハ「ピン」ヲ抜き以テ軸ヲ抜き蓋ヲ離脱ス

抽脱シテ
後如左
脱シテ
前方ニ
抽出ス
和ニ於
テ電セ

此燈
芳和
五片
大乃
不假
一鏡
二下
乃二
上ノ
方ナ
商ニ
公ハ
必成
或積
擇分
暗南
後方
マ
テ

時安在焉

此乃手男等經心研究
 乃內家之秘法也
 此乃手男等經心研究
 乃內家之秘法也

頭部ニ當テ外方ニ押シ出シタル後把持ヲ具簡ニ付テ

副板六前方へ抽脱ス

積桿ヨリ活筭及ばねヲ分解スルニハ「ピン」拔等ヲ以テ「ピン」ヲ

脱シ分解ス

四
賊
子
被

尾筒ヨリ脱子被ヲ分解スルニハ壓機ヲ用シ被ヲ剥ぎ去ルハ骨作ノニ付

後ねぢ廻ヲ以テ止栓ヲ抜キ尾筒ヨリ分離ス

出賊子

尾筒ヨリ鐵子ヲ分解スルニハ熱下ノ要一トシ

大脫離

(出) 緩衝器及ばね室

尾筒底ヨリばね室及緩衝器ヲ分解スルニハ指頭ヲ以テ廻リ止ヲ前方ニシねばね室ヲ左ニ旋回シテねぢ戻シタル後緩衝器及ばねヲ分離ス

銃床ヨリ銃床ヲ離脱スルニハ用心金栓ノ「ナット」ヲ離脱シタル後銃床ヲ左方ニ抽出シ銃床ヲ後方ニ離脱ス

(土) 門子結合子

銃床ヨリ門子結合子ヲ分解スルニハ「ピン」拔ヲ以テ結合子ノ前部鐳部ヲ前方ヘ押シ結合子ノ前方側面ノ突梁カ用心金ノ室ヨリ脱シタルトキ前方部ヨリ外方ニ取出ス

(出) 引金及逆鉤壓桿

銃床ヨリ引金及逆鉤壓桿ヲ分解スルニハ「ピン」拔ヲ以テ逆鉤壓桿軸ヲ右ヘ抽脱シタル後共ニ下方ニ抽脱ス

引金軸ハ兩端面ヲ「カシメ」アルヲ以テ分解スヘカラス

(出) 逆鉤

銃床ヨリ逆鉤ヲ分解スルニハ「ピン」拔ヲ以テばね室蓋ノ止栓ヲ右
へ掛シテ蓋ヲ脱シ次テ逆鉤及ばねヲ抽出ス但シばね室
蓋止栓ヲ抽脱スル際ニ下方ニ手ヲ放シ落テ防止スヘシ

(六) 安全栓

銃床ヨリ安全栓ヲ分解スルニハ「火」「安」ノ二位置ノ中央ノ箇所
ニ廻シ右方ヨリ指頭ニテ押シ左方ニ抽出ス

(七) 前脚

「ガス、ポンプ」ヨリ前脚ヲ離脱スルニハ脚桿及「ガス、ポンプ」
ヲ握リ相互ニ旋回シテ蟻部ヲ分離ス
此ノ際脚頭ばねヲ落矢セサル如ク注意スヘシ

(八) 銃床

銃床ヨリ後脚ヲ離脱スルニハ止軸頭ノ「ピン」ヲ拔キ止軸頭ヲねぢ
戻シテ脱シタル後止軸ヲ抜キ後脚ヲ脱ス

高低ねぢヲ後脚体ヨリ分解スルニハ脚頭及踵鐵ノ銑着ヲ夫々脱シタ
ル後高低ねぢヲねぢ戻シ乍ラ上方ヘ脱ス

0570